



広報

あくな

第423号

四月一日
市制施行
三十周年

本来にははたたく

阿久根市に

「出水郡阿久根町の市制実施はきのう三十一日県議会の賛成に可決、今日一日から鹿児島県下第六番の市として北陸に雄飛する、阿久根市」が誕生することになった……ミナト阿久根は水深高洋間二十万貫、漁獲高一億五千万円でそのうちイワシが七八割を占めており、県下でも一、二位をあらそうサカナどころ——長崎や天草の牛深、長島、岬島方面との定期船が通い、さいきは急行列車も停車するようになって交通上の利用価値も多くなった——阿久根を語る人は誰しも「ツル」の産地としての観光的価値を誇るであろうが、戸柱公卿や陸より二、余り離れた海上に乙女の小クシをふせたような形で浮かぶ大島の風光もまた有名である……」

昭和二十七年四月一日、市制施行当日の阿久根市の様子を地元新聞はこのように紹介している。

不安と悲しみに明け暮れた戦後の混乱期、戦災により大部分が焼け野原となった市街地も復興計画が進み、人々の生活にもようやく落ち着きが見られた昭和二十七年四月、人口三万一千八百五十九人県下六番の市として阿久根市が誕生した。その日から三十年、昭和三十一年には三笠町も合併、人口も四万人に達した。今日、人口の減少が見られるものの産業も順調に伸び、県下にあまねく知られる「住みよいまち」として成長した。過ぎさった昔をなつかしむとともにこの四月を私たちの未来にははたたく新しい月としたいものです。

なお、三十周年記念式典は五月十四日に実施される予定です。

4月号

上空から見た阿久根市街地

ために活力ある市政を

川畑市長施政方針を発表



基盤整備を最重点に

市民の福祉向上にも努力

川畑市長は、三月十一日から開かれた、昭和五十七年度第一回定例会議において施政方針演説を行い、過去三年間の実績をふまえ、さらに「ぬくもりに満ちた、晴と海の調和のとれた活力のある阿久根市をつくる」ために、農業、漁業、商業、各方面にわたり積極的に施策を進め、とくに本年は、道路の基盤整備を最重点に、市民福祉の向上のため、市政を推進していくことを明らかにしました。全文は次のとおりです。

昭和五十七年第一回定例会議の開会にあたり、市政に対する所信を申し述べ、市民の皆さまのご理解をいただき、市政推進にご協力を賜わりたいと存じます。

政府は、昨年来行政改革を強力に推進し、臨時行政調査会の「行政改革に関する第一次答申」に基づいて、所要の施策を閣議決定し、諸行革法案が制定されておりますが、さらに去る二月十日には許認可の整理合理化を中心とする第二次答申がなされたことは、すでに皆さまご案内のとおりであります。

政府は、先に財政再建の立場から五十七年度予算編成にあたり、各省庁に対しゼロシーリングを設定したのであります。このことにより、国は、昭和五十七年度予算

を伸び率一・八割に抑制した超緊縮予算として編成し、収支の均衡を図ろうとしているところであります。巨額な国債残高の重圧を中期に減らしていくため、財政投融資計画も対前年度伸び率四・一割の低い伸びとなりました。

このような国の財政運営の方針

市民の協力、理解で 積極的に市政を推進

かえりみましますときに、私は、昭和五十四年二月市長に就任いたし、施政の理念として「市民の心を心として、公正でぬくもりに満ちた均衡のとれた市政を執行する」ことをかかげ、基本目標として「陸と海の調和のとれた活力のある阿久根をつくる」ことを念願として、この三年間努力を重ねてまいりました。

さいわい市議会を始めとして、市民の皆様の積極的なご理解、ご協力により、市政は着実に、順調に進展を続けてまいっているものと確信をいたすものであり、深く感謝申しあげます。

は必然的に地方に波及し、民間景気の低迷とあわせて自治体の財政運営はますます困難の度を深めてまいっております。

私は、昭和五十七年度予算編成にあたっては、このようなゼロシーリングの状況のもとで、第一に「従来どおりの行政水準は維持し、いかなければならない」ということと、「市民への行政サービスの低下を来してはならない」という二つのことを念頭において編成いたしました。

昭和五十七年度は、阿久根市にとりまして市政施行三十周年という意義ある年を迎えることとなりますが、長い阿久根の歴史の中の大きな節目として、市民こそってお祝いし、長年にわたる先達の努力に感謝の誠を捧げ、さらに、未来への希望をこめた各種の記念事業を実施し、阿久根市浮揚の起爆剤にしていきたいと思つ次第でございます。

とくにまた、私の任期の最終の年度にあたり、仕上げの年として、過ぐる三年間の実績に立脚し、市民各階層の要望、意見をふまえ、初心を忘れることなく、ひたすら

市民の

市政の発展と市民福祉の増進を計画的、かつ積極的に推進してまい
る覚悟でございます。

企業誘致で 人口増を

基調となる考え方としましては、
まず、何といつても人口の増加を
図らなければならぬということ
であります。若年層が定住し、活
力ある街を形式していくには、人
口の増加が何としても不可欠であ
ります。そのためには、既存の産
業の振興はもとよりでありますが、
新しい企業の誘致に積極的に努力
してまいりたいと思っております。

次に県下十四市の中で、昭和五
十四年十三位にあった市民所得は、
昭和五十五年十二位に進出するも
のと予測いたしておりますが、な
お将来にわたり上昇を続け、豊か



施政方針を述べる川畑市長

な市民生活が営まれるような市民
の所得増につなげる施策をすすめ
てまいらるべきであろうと信するも
のであります。このことは人間は
所得の高い豊かな地域に集中して
いくことを考えますと、人口増対
策と相関関係にあり、強力に推進
していく必要があると思ふ次第で
ございます。

国におきましては、三全総に基
づく定住圏構想により、開発志向
から国民の居住環境重視への政策
転換が図られておりますが、阿久
根市は、後発性地域として依然と
して開発の推進を続けるべきであ
ろうという認識をもつものであり、
これに加えて、さらに生活関連施
策の充実を図るべきものと思ふ次
第でございます。

このような社会経済状況の変動

や時代の進展に適応していくため、
今後進むべき阿久根市の将来像を
明らかにするとともに、長期的願
望に立った目標を設定し、かつ、

建設にも補助

冷庫予製
工場茶

特に本年度は製
茶工場、キウイフ
ルーツ予冷庫建設
事業に対し、国県
補助に合せて十割
の助成を実施する
こととし、農産物
の附加価値を高め
農家所得の向上に
資したいと思えて
おります。また文
旦の品質向上のた
めの袋掛けもテス
トケースとして実
することといたし

目標達成のための基本的施策及び
手段をかけた市政推進の基本と
なる新阿久根市総合開発計画を今
次議会に提案したいと思っております。
一方、国が進めております行革
に呼応して、阿久根市の行財政の
根本的な洗い直しを図るため、部
内組織として三行財政改善委員会
を設置して、その答申を待って簡
素にして効率的な行財政制度の確
立を目指し、新しい時代への対応
と市民の期待に応えていく決意で
あります。

各種制度を導入 負担の軽減を図る

次に、昭和五十七年度予算を編

成するにあたり盛り込みました主
な施策について、その概要を申し
あげます。

農業の振興につきましては、基
盤整備の推進、生産体系の再編成
農地の流動化促進、農産物の流通
加工体系の改善及び後継者育成、
この五つの柱が基本であるといわ
れておりますが、本市産業の基幹
である農業につきましては、基盤
整備が第一と考え、従来から構造
改善事業等を通じ、整備を進めて
おりますが、今後も引続きそれぞ
れの制度を活用して地元負担の軽
減についても配慮をしながら基盤
整備を始め、農業振興対策を講じ
てまいりたいと考えております。



お年寄りの生きがいづくり
「肉用牛導入基金」は人気

ら畜産振興の一環として「高齢者
等肉用牛導入基金」を設置いたし
ましたが、非常に好評で利用率が
高いので、本年度は基金枠を拡大
して充実を図りました。

二年目を迎えました農村総合整
備計画に基づくモデル事業は、農
道舗装、用排水路改良を主とした
事業を実施してまいります。

このほか、主要農道につきまし
ては、引続いて砂利散布、グレー
ダーを利用した整備などいたしま
す。さらに、県営事業として高松
地区過疎基幹農道を実施する予定
であります。

市民いこいの森を総合レク地に

イカしばを設置、漁業振興を

林業では、従来造林及び保育事業を重点に森林資源の造成に努めて参りましたが、昨年は、県代行による林道阿久根中央線の開設事業の導入や林業構造改善事業の開始により、林業生産のための基盤整備に着手いたしました。本年も引続いて事業を拡大し、林業構造改善事業による集会所施設の設置等を推進してまいります。

昨年市制施行三十周年記念事業の一つとして「市民いこいの森」の整備をいたしました。本年はさらに、花と緑のふるさとづくり事業を加え、植樹祭りなども計画して森林レクリエーション施設として整備充実する計画をすすめております。

また、今や阿久根市の特産品として定着いたしましたタケノコの竹林改良事業も山手農家の所得増収対策として引続き実施していきたいと思っております。

このほか、入会林野整備事業も



阿久根山には展望休憩所も完成整備される「市民いこいの森」

実施することになっております。水産業は、県下の五大市場の一つとして位置づけられ、県政の中でも重要な沿岸漁業地として大きな役割を果しておりますが、さらに、獲る漁業から育てる漁業へと転換がなされつつあります。この主旨にのっとり、本年は外海域放流パイロット事業に加え、ウニの養殖を実施いたします。また、イカしば設置事業にも助成してまいります。

流通加工面では、多産性魚利用高度化施設緊急整備事業として冷凍貯水庫の設置についても助成することになりました。また、漁船の基地としての漁港の整備は、阿久根漁港の修築を第七次整備計画にのせて推進を図ってまいりますが、同時に港湾の整備としては高之口港改修事業、大澳、小連港の局部改良事業も五十六年度に引続いて実施いたします。

商業診断で商店点検

商工業については、市内の企業、商店のほとんどが妻細業態であり、その存立は極めて不安定であります。これらの経営の近代化、合理化などについて商工会議所等と連携を保ちながら促進してまいります。その対策の一つとして、本年は広域商業診断を県の協力を得て実施し、商店街の再点検と将来についての発展振興への方策を見出す努力をいたします。

従来実施しております物産展は、各地において非常に好評を得ておりますので、今後も参加し、特産品の発掘、PRの役割りを果たしていくべきであると考えます。観光の面でも、本年は観光パンフレットの製作をいたし、観光阿久根の宣伝に役立てたいと思っております。

潟地区の基本調査も促進

脇本、尻無バイパス早期完成へ努力

土木事業関係でございますが、道路の整備は何と申ししても重点施策の一つであり、四カ年整備計画に基づき、総延長三百九、二のぼる市道整備に努めてまいりましたが、昭和五十七年度は、このうち改良六千三百二十九、舗装一万二千三百二十八を計画いたしております。これが完成いたしますと改良率三四・二、舗装率八八・九になる見込みであります。

さらに、五十五年度から里道整備事業を新たにスタートさせ、市道整備の補充的役割りを果たすという意味から、生活道路としての里道整備を行ってまいりましたが、本年も引き続き実施して市民の生活環境の改善を図る所存でございます。また、同様な生活関連事業として大丸排水路、大尾排水路等の環境整備を実施することになっております。

このほか、交通安全施設整備につきましても、ヤマ細かな施策を実施していきたいと思っております。市内の国、県道につきましても、関係機関に積極的に改良促進方の陳情をいたしますが、特に国道三号尻無バイパス建設、国道三三九号の改良、同じく三三九号バイパス建設や空港アクセスとしての県道阿久根東郷線の早期改良等を重点的に働きかけていく所存でございます。

都市計画では、鶴見地区区画整理事業がいよいよ最終年度に入り、五十七年度は児童公園、幼児公園の整備を始め、残された区画整理をいたし、総事業の完了を予定しております。また、新たに潟地区の事業実施については、市民の要望も強く、市街地形成の長期的展望に立って推進する必要があるかと思われましますので、基本調査など実施し、計画策定を急ぎたいと考えております。

次に三年目を迎えました上野都市下水路事業は、国鉄の事情により工事が延びておりましたが、本年度は国鉄軌道下の横断工事を国鉄に委託して施工いたしましたことになりました。

住宅行政につきましても、本年度も春畑に十戸建設するほか、がけ地近接危険住宅移転事業など実施し、市民の住宅需用にこたえてまいります。

次に民生部門では、市民の健康

づくりを推進し、健康相談、健康教育、健康診査等保健サービスを総合的に行う拠点として、「保健センター」の建設を進めており、四月一日から供用開始の運びになります。同時に、

「健康で長生きできる」よう 四十歳代の健康診査も実施

市民の健康の維持増進については、深い関心をもっていただいておりますが、先般開催された出水地区の医療問題懇談会において、出水地区内の他市町に比べ、阿久根市の妊産婦が概して貧血の傾向が強いという指摘がなされました。私は、これは決して貧富格差等からくる問題ではなく、栄養のバランスからきているのではないかと思うわけですが、この対策として栄養教室等も開き、ご婦人方の栄養に対する知識も啓蒙したいと思っておりますが、同時に、本年度は母子栄養強化食品の支給を拡大し、従来所得税の非課税家庭の妊産婦だけを対象にしておりましたが、これを全家庭の妊産婦を対象に支給するようにいたし、さらに乳児の発育不良児に対しても全員に粉ミルクを支給するようにいたしました。

働く婦人の地位の向上と福祉の増進のため「働く婦人の家」を保健センターに併設して、やはり四月一日からオープンするよう準備を進めているところであります。



お年寄りの生きがいづくりも推進

胃がん検診、子宮がん検診についても従来の三分の一補助を三分の二に引き上げるよう改定いたしました。また、県が進めておりますサンライフ運動の阿久根市独自の特色ある制度として、四十歳代検診事業を新たに設けました。人間は、四十歳代になりますと脳

卒中を中心とするいろいろな障害が出てまいり一家の中心となつていく働きかけの力が弱まると、家庭にとりましては誠に悲惨な結果をもたらしますので、四十歳になつた人々を対象に各種検診を行うおうとするものであります。

次に福祉では、わが国の福祉制度は生活困窮者を救済するという生活保護業務が主流でありましたが、高齢化社会への移行の中で老人問題をはじめ、身障者、母子対策など非常に多様化しておりますが、今後救済から一歩進めて「生きがい対策」を重視し、自立への道を講じていかなければならないと思つております。身障者貸付金事業などそういった意味で増額をいたしましたものであります。

また、老人夫婦結婚五十年記念事業を実施することにいたしました。これは、結婚五十年を迎えられたお年寄り夫婦に記念植樹をやつていただき、記念の森として育成していくという趣旨でございます。

消防の充実については、組織の強化、機械器具の近代化、団員の確保、待遇改善などに努力してまいりましたが、本年度は、三笠北部の大滝、黒之上、小滝、八郷の四分団を統合、新たに黒之瀬戸分団を設置し、これによりポンプ付積載車を配備し、機動化を図りま

す。これによって市内全分団が機動分団としての機能をもつことになりま

また、かねてからボランティア精神で市民の生命、財産の安全のために活動している団員に対し、待遇改善の一環として作業服を貸与することにいたします。

学校施設の充実で 教育の発展を

教育が国家百年の大計として重要なことは今更申しあげるまでもないことですが、市行政が直接担当する問題としては、市立小・中学校の施設の整備があります。本年度も計画に基づき、学校施設の整備を図っていきたくと思つております。

具体的には阿久根小学校、折多小学校の危険校舎の改築、鶴川内中学校プールの建設を行います。また、経済的理由によって修学困難な者に対する学費の貸付のための奨学金を改善することにいたしました。

市長、職員一体となり 市民奉仕に尽くす

以上施政方針について所信を申し述べましたが、これらの施策の実現につきましては市長以下全職員が一体となって住民の負託に

社会教育では、五十六年度事業として協本地区公民館を建設しましたが、来る四月一日から供用を開始し、既設の市民会館、大川地区公民館とあいまって多角的な社会教育の一層の充実を図ってまいります。

社会体育では、議会を始め市民の皆様の非常に熱心なご協力を得まして、昨年ブルーシー・アンドグリーランド財団による海洋センターの誘致が実現いたしました。現在体育館、プールを建設中であり、今次議会に設置条例も審議いただくこととなりますが、四月一日から開設いたし健全な青少年教育に努力してまいりたいと思つております。

このほかに、すでに皆様ご存じのとおり昭和五十七年度全国高等学校総合体育大会が鹿児島県下二十三市町を会場として開催されますが、阿久根市は、ボクシング会場として決定を見、すでに昨年来準備をすすめているところであります。八月二日から七日までの六日間にわたり開催いたします。

え、住民福祉の向上を最優先とし、真に市民に奉仕するという姿勢で対処してまいりたいと思つております。何とぞ、議会を始め市民の皆様のご理解をいただき、積極的なご協力を賜りますようお願い申し上げます。私の施政の方針でございます。

第一回
定例市議会

一般会計 予 算 72億7,439万円

前年当初に比べ2.5%の伸び

市税やや伸びる 依然国・県に頼る財源

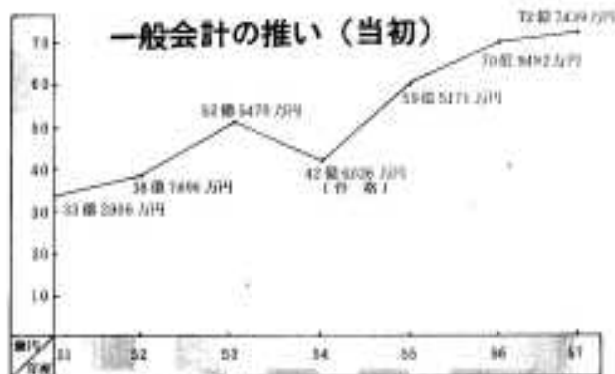
昭和五十七年第一回定例市議会は、三月十一日から二十九日までの十九日間の会期で開かれました。

会議では、川畑市長の施政方針と昭和五十七年度一般会計予算を中心に関連が行われ、議案一件が特別委員会付託となったほかは議案三十四、同意一件が原案どおり可決されました。

このなかで、五十七年度一般会計予算は七十一億七千四百三十九万円を計上しました。予算の内容について見てみますと、歳入では、昨年と比べ市税が少し伸びていますが、依然交付税や国や県の支出金が大部分を占めており、歳出では民生費、土木費の伸びが大きく、市民一人当りの予算は二十四万二千四百円となります。



財源内訳



第一回定例議会で 可決された主な議案

第一回定例市議会で審議可決された議案は三十四件で主なものは、三等東部地区ほ場整備に伴う字の変更、臨本地区運動広場及び臨本地区公民館用地、阿久根市総合運動施設等整備用地として阿久根市土地開発公社から土地取得する件について議会の議決を求めたもの、市長など三役と議長、議員、各種委員会委員長、各種委員などの報酬及び費用弁償の改正議案、阿久根市消防団員の定数の改正と団員、分団長などの報酬などの改正議案、非常勤消防団員に係る公務災害補償条例の一部を改正するもの、春畑と黒之浜に建設された市営住宅の家賃など管理条例の審議、これにより、新設された春畑、黒之浜の住宅の家賃は「二万二千二百円」となります。

阿久根市奨学条例の一部も改正され、高校生が現行「四千円」から「六千円」に、専門学校生などが現行「六千円」から「二万円」に、大学生が

国民健康保険

事業勘定の歳入、歳出の予算総額は18億8,842万円で、健康保険税は6億558万円、国庫支出金が12億7,714万円となっています。

歳出のほとんどが保険給付の費用。

大川診療所の直営診療施設勘定の予算総額は歳入歳出2,914万円。

国民宿舎

予算総額は2億5,855万円で、歳入の98パーセントが使用料。

歳出は光熱水費や委託料、人件費など事業費と公債費。

簡易水道

予算総額は歳入歳出それぞれ3,395万円で、使用料による収入が3,259万円。歳出の主なものは11簡易水道の公債費。

交通災害共済

予算総額は702万円で、歳入の85パーセントが共済会費。歳出は見舞金の550万円、積立金など。

冷蔵庫

歳入歳出予算総額1,657万円、歳入のほとんどが冷蔵庫使用料で、歳出は光熱水費など管理費と自動取付工事費などとなっています。

食肉センター

予算総額は1億501万円。歳入の主なものは食肉センター使用料1億430万円で、歳出では電気料、水道料、燃料費など管理費がほとんどで、そのほか市債償還金などの公債費。

水道事業会計

収益的収支の支出総額は2億1,834万円で、水源地の電気料や配水管修繕費、減価償却費などの管理経費が主なもので、歳入のほとんどは水道料金。

資本的収支の支出総額は、1億8,864万円で、三年目を迎えた第四次拡張事業費と高地区の配水管取替工事費、水源地整備水源地調査費、企業債償還金などです。

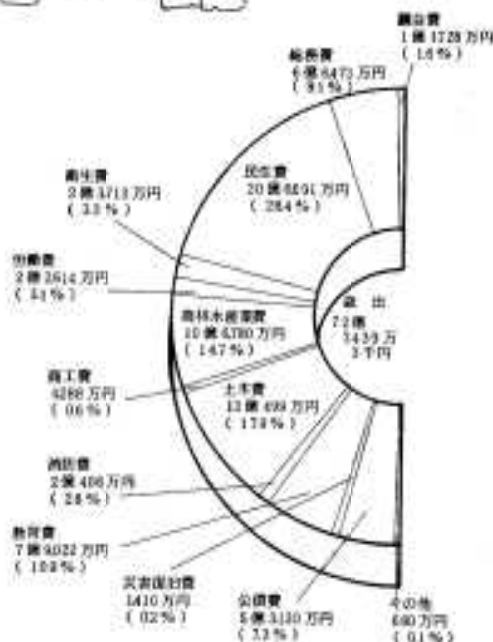
収入は1億4,218万円。企業債、負担金など。

特別会計

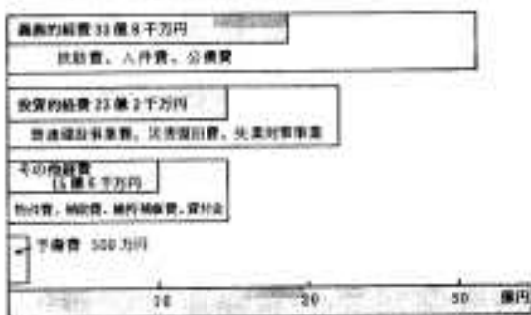
市民一人当りの予算



24万2,479円



性質別歳出の状況



「二万二千円」から「二万八千円」にそれぞれ引き上げられました。

国民健康保険の被保険者の出産支給額も現行「八万円」から「十万円」に引き上げられます。

乳幼児医療費の歯科診療分助成の年齢ワクをこれまでの「一歳未満」を「四歳未満」に引き上げる条例も可決されました。

このほか、働く婦人の家、保健センター、臨本地区公民館及び運動広場、B & G財団海洋センター等の設置、管理条例も可決。そのほか、阿久根市有温泉管理条例、高齢者等肉用牛導入基金条例の一部改正と、各特別会計補正予算一般会計の補正予算の議案でした。

一般会計補正予算では歳入、歳出に二億五百十九万三千円を追加し、予算総額を七十八億一千四百一十一万三千円としました。

同意一件は教育委員会の教育委員に斉藤洋三氏を任命することに同意を求めたものです。

事業を盛込み

円みんなのために使います

今年も厳しい地方財政の中での予算でありませんが、抑制できる部分については抑制し、市民のためにゆきとよく施策を重点に予算を配分しました。

一般会計予算の歳入歳出は七十二億七千四百三十九万円で、昨年当初に比べ二・五割の伸びとなりました。

これは、昨年に比べ伸び率が減少していますが、昭和五十六年度に保健センター、働く婦人の家、協本地

舗装率八八・九%を目指す

総合グラウンド下に大型排水溝も

区公民館など大型公共事業を取り入れたための事業費が伸びた分と、大きな災害が少なく、この分の予算が減少したものです。

わずかな伸びの予算ですが、二十五の新規事業を盛り込むなど充実した内容となっております。

各事業ごとに主なものを紹介します。

健康と福祉の増進

歳出予算の二八・四割を占める

民生費のうち、心身障害者福祉費では、昨年に引き続き心身障害者の方々のスポーツ大会、福祉大会経費など六十万円を予算化。

本年度新たに身体障害者自立更生貸付資金制度を設け、百万円の予算で心身障害者の方々が安心して社会に適應できるよう援助します。

重度医療費、補装具など扶助費についても従来どおり予算を計上いたしました。

老人福祉関係では、結婚五十年を迎えられた夫婦を祝福し、記念植樹を行ってもらう経費六十五万円も盛り込みました。

老人ホーム入所者の経費、老人医療費など扶助費も増額、このほか、老人クラブ補助金、各種スポーツ大会などにも予算を計上し、

お寄りの生きがいづくりを進めま

す。

児童福祉費では、児童手当、児童館入所者の措置費など一億円、市内の生活保護世帯の生活扶助費や医療扶助費四億一千八百七十四万円も予算化しました。

保険衛生費では、「健康で長生きできるよう」、四十歳になった方の健康診査や、貧血対策として市内の三十歳以上の健康診査、乳児へのミルクの支給、健診、相談事業など市民の健康づくりを積極的に推進します。

臨本診療所の内部改修費も予算化し、充実を図るほか、新しく完

成した働く婦人の家の管理費など、

消防関係では、新しく充足する黒之瀬戸分団に積込車を配置するほか、市内三百三十七人の全団員に作業服を貸与する予算二百三十五万円も予算措置しました。

産業の振興

農業振興費では、温州みかん園転換促進事業五百三十一万円、阿久根農協が鶴川内に建設する茶加工場補助金として三千三百二十七万円を支出し、茶業の振興を図ります。

えんどう、そらまめの連作障害対策の土壌消毒事業費などにも引き続き補助していきます。

ポンタンの品質向上を図るため

誕生

おめでとう



出生児

保護者 区名

野畑	陽子	誠	(遠矢)
森山	弥生	澄年	(大丸)
花田	直也	清美	(大丸)
岩崎	めぐみ	菊文	(飛松)
木山	大輔	和男	(濁)
竹田	六宏	六雄	(大丸)
濱崎	純平	國治	(牟田)
加世堂	裕美	照幸	(湯)
白肌	洋平	守	(弓木野)
猿楽	直己	克紀	(新町)
青木	絵美	政美	(折口東)
岩切	春香	義昭	(横手)
伊	輝政	秋則	(新町)
尾上	綾子	寛治	(飛松)
下園	作磨	信	(寺山)
福岡	孝之	純孝	(一段)
波留	昌彦	和典	(寺山)
寺地	華織	寿美	(尻無下)
柳原	香紀	一夫	(寺山)
垂	俊弥	三郎	(大丸)
中村	真貴	正明	(橋之東)
山本	敦志	光高	(黒之浜)
大野	智美	厚雄	(桐之下)
中原	貞治	勝海	(筒田)
堂後	ひかり	直	(桐之下)
黒坂	あゆみ	健治	(大谷)
中原	大輔	国義	(筒田)
岩崎	名利子	則夫	(飛松)
田上	葉子	利和	(横手)

新規 72億

袋掛け事業も実施します。

また、昭和五十六年度からスタートした高輪若等肉用牛導入基金に今年も十割分三百三十八万円、素畜導入資金貸付金四千六百万円も予算化し、畜産振興を図ることにしています。

農道整備費では、上原瀬之浦線ほか二地区の県単工事費や、赤瀬川市移合グラウンド下に新たに用排水路を新設する工事費として一億六千五百五十万円、農道砂利散布代三百万円、グレーダー借上補助金なども予算化し、農道の整備を進めます。

山下地区、尾崎、弓木野の一部を国土調査

国土調査費では、今年山下馬場、遠矢、尾崎と弓木野の一部、五・七ヶを調査の予定にしており四千七百六十一万円を計上しました。

農業構造改善事業費では、三笠町農協が設置するキウイフルーツの子冷蔵建設に五千百万円を補助するほか、桐野地区に連絡道を新



設する予算も措置しました。

二年目の農村総合整備モデル事業費では七千万円を予算化、牧内地区など四地区の農道や集落道の新設改良舗装を行うほか、折口東地区など七カ所の排水、水路の新設、改良、八郷笠山線ほか一線を新設、整備します。

林業費では、横ヶ倉線の改良工事費や林道へのジャリ散布、市民いこいの森に休憩室や駐車場の建設と「花と緑のふるさとづくり」の苗代七十二万円を予算化。馬見塚区と大漣区に集会施設も建設します。

例年どおり、除間伐推進事業や有害鳥獣駆除費などにも予算を盛り込みました。水産関係費では、昨年に引き続

き稚ウニの放流を計画、二百万円を予算措置しました。

阿久根市漁協が建設する貯水施設に一千四百四十万円を補助。本年新しく百万円の予算でイカシバも設置します。

商工費では、昭和五十二年について、阿久根市の商業診断を実施。商業園の具体的方策を作成します。夏まつり、観光物産展参加、写真コンテスト、観光パンフレットの印刷など阿久根の観光にも力を入れます。

このほか、大川島、駈本、大島の三つの海水浴場にハマグリのお流も予定しています。

公共土木事業

昨年度当初予算に比べ二億五千万円を増加した土木費では、生活環境整備のための市道の新設改良を積極的に進めます。主なものは、過疎対策事業で山下弓木野線ほか三線一千七百五十万円、臨時地方道整備事業では、内田大下線ほか三線一千三百二十万円、電源立地促進対策事業で、大角線ほか四線の道路改良や本町通り線の排水路工事など、市単独で三路線、広域事業で一路線を改良舗装することにし、道路舗装率八八・九割を目指します。

茶円ヶ段橋も架けかえ

橋りょう費では、茶円ヶ段橋の架けかえ、里道整備では佐潟上村線ほか二線分の整備補助金三百万円も予算化しました。

交通安全施策としてガードレール二百八十本、ロードミラー二十基も設置します。

河川維持費として愛后川、大丸川のしゅんせつや、大尾排水路改良工事費として四千三百三十万円、都市計画費では、鶴見地区の都

教育の振興

市内、小中学校の改築、補修を進め、教育環境を良くするほか、教育機器を入れて内容の充実を図ります。

市制三十周年記念事業として、中学生を対象に少年海外派遣事業を計画、八十五万円の子算を盛り込み、明日を担う少年に外国を見聞し、知識を修得してもらうことにしています。

学校建設費では、阿久根小学校の危険校舎の改築、折多小学校の全施設を改築します。鶴川内中学校には五三、二十五のプールも建設します。

市計画が最終年度に入り、幼稚園公園の造成、植栽費など六千四百六十万円、街路事業費として大丸遠見カ岡線を引き続き工事します。

このほか、上野都市下水路の国鉄横断に伴う工事委託料五千八百二十万円、市民の住宅難解消を図るため市営住宅十個分も予算化しました。

港濱関係では、高之口、大漣、小漣港を継続して工事を進め、物揚場やしゅんせつなど局部改良していきます。

社会教育費では、各民主団体の育成を図るため従来どおり補助金を計上し、社会教育の振興に努めます。新しく完成した橋本地区公民館などの維持管理費一千万円も予算計上しました。

スポーツ振興では、今年の高等学校総合体育大会運営補助金として五百八十二万円を予算化し、八月の本番へ向けて準備を進めるほか、各体育団体、大会出場費など従来どおり補助し、スポーツの育成を図ります。

施設関係では、ソフトボール場の照明取替工事費、海洋センター管理費四百八十三万円も予算化、市民の体力、健康増進の場として活用いただくよう運営を図ります。

目で見る阿久根市

写真特集



市内の港も整備が進み
阿久根港には連日イワ
シやアジなどが水揚げさ
れにぎわう

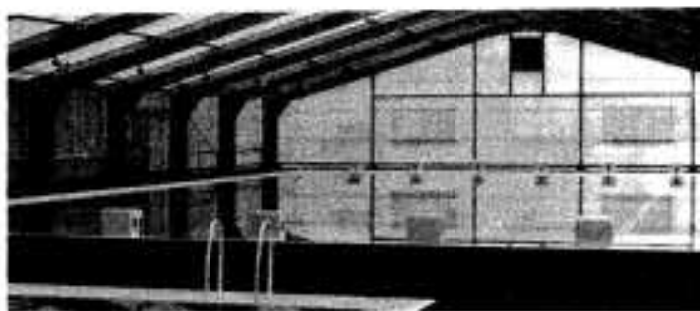


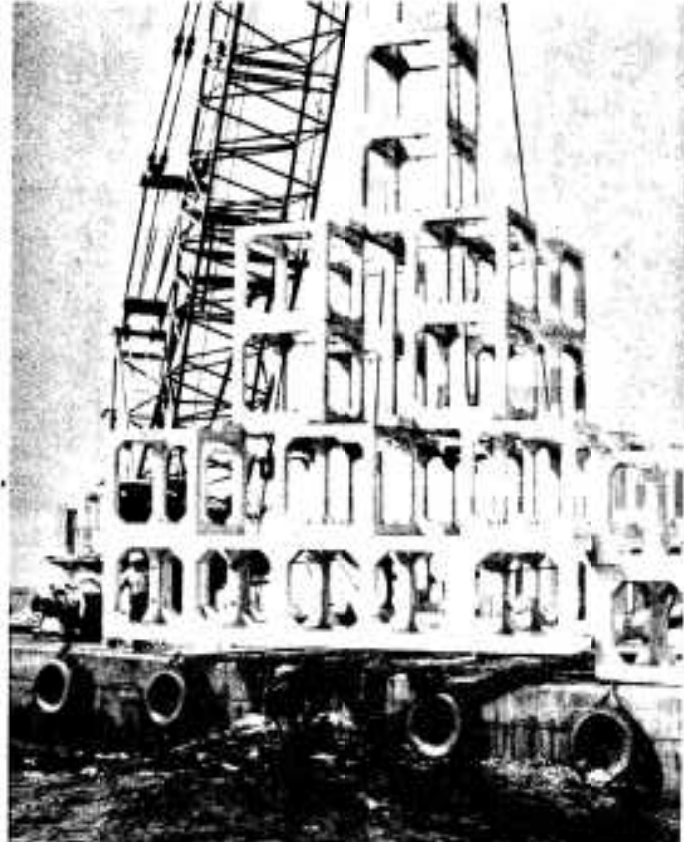
全国に知られる
阿久根のボンタン

県下のタケノコどころ阿久根。
竹林の改良で出荷も順調



写真①は、完成したB&Gの海洋センター、②がプール
③が体育館、④は、昭和五十五、五十六年事業で完成し
た華人地区簡易水道。おじいさんも大喜び





川畑市長が市政を担当して三年を過ぎました。昭和五十六年度は財政状況の厳しい中、市政においては保健センター、働く婦人の家、福本地区公民館の建設。さらに県庁事業による中央林道の着工。国による大型人工磯の設置開始など各方面において着実な歩みを続け阿久根市も日一日と目まぐるしく変化しています。

ぐんぐん伸びる阿久根市、昭和五十六年度を振り返りかえり、写真特集して見ました。

写真①は、福本の産業、文化の拠点としてオープンした福本地区公民館。裏にはソフトボールができる広さの運動広場も完成。②は、漁業振興にと五十六年から始まった大型人工磯の設置。



市民の健康づくりの拠点としてオープンした保健センター、働く婦人の家。

国道389号、福本バイパス工事も順調。

異動

四月一日付(○印は昇格)

() は旧任

- ▽税務課長(食肉センター)所長
- ▽馬場庄蔵▽保険衛生課長兼保健センター所長、働く婦人の家館長
- (市民課長 小原庄吉)▽市民課長
- (選挙管理委員会事務局長 磯畑節夫)▽農政課長(農政技監兼畜産係長) 長尾明▽土地改良課長(建設課技術補佐兼道路維持係長) ○京田盛雄▽保育所長(総務課参事 ○中村学)▽食肉センター所長(大川出張所長 寺地世界)▽三笠支所長(保険衛生課長 松木剛)▽大川出張所長(市民会館長 川畑克己)▽教育委員会庶務課長(土地改良課長 中尾泰法)▽選挙管理委員会事務局長(税務課長補佐兼課係長) ○桑原祐示▽都市計画課参事(教育委員会庶務課長) 久保重春
- ▽税務課参事(税務課長 橋元華南)▽福祉事務所参事(三笠支所長 村岡国利)▽土地改良課参事(保育所長 田島良之)▽併市民会館長
- (教育委員会社会教育課長 肥後久米規)▽市民課長補佐兼住民係長(福祉事務所参事兼社会係長) 餅越学▽税務課長補佐兼課係長
- (商工観光課商工観光係長 ○山口一人)▽水産課技術補佐兼漁政係長(水産課漁政係長) ○尾原重徳
- ▽商工観光課長補佐兼商工係長

次頁へつづく

昭和56年度 主な事業

華人地区簡易水道完成
 山下小学校プール建設(5コース、25メートル)
 外海水域パイロット事業(稚ウニ放流)
 高之口、小瀬、大瀬港改修工事
 船本漁港局部改良(物揚場など)
 保健センター、借く飼入の家建設
 船本小学校給食室改築
 田代小学校危険校舎改築
 西目小学校 *
 大川中学校 *
 鶴見地区区画整理事業(街路など建設)
 黒之浜漁村センター完成
 市有林造成(205ヘクタール)
 林業構造改善事業スタート(林道舗装、いこいの森整備、田代下、古里集会所施設建設など)
 県代行林道阿久根中央線着工(山下横ヶ倉から田代下、延長12キロ)
 上水道第四次拡張事業(56年度1億7千万円)
 船本地区公民館、運動広場建設
 農村総合モデル事業(農道改良など)
 市道舗装12442m 改良4007m
 B&G海洋センター誘致(体育館、プール完成)
 上野都市下水路事業2年目
 阿久根沖に大型人工礁設置始まる
 水田利用再編対策106ヘクタール
 身障者用トイレなどの設置
 総合グラウンド整備(排水工事)
 鶴中、大川中、三笠中運動場整備
 市営住宅建設(春畑10戸、黒之浜4戸)
 華人小中へき地教員住宅建設
 尾崎小、船小、鶴中に共済住宅建設
 佐島河原遊歩道建設



写真①は、県代行事業阿久根中央林道山下横ヶ倉から田代まで、十二キロを結ぶ。②は、昭和五十六年九月完成した山下小学校のプール。元気に初泳ぎを楽しむ子供たち。③は、市道整備も順調で、改良が進む山下弓木野線



折口地区の冠水対策に排水器場の本体も完成



(福祉事務局長補佐兼庶務係長
 鶴田幸吉)▽建設課技術補佐兼土木係長(同、土木係長)○東園喜南
 △都市計画課技術補佐兼都市計画係長(同係長)○尾原勝▽福祉事務局長補佐兼庶務係長(市民課長補佐兼市民係長) 池脇忠志▽教育委員会社会教育課長補佐(議公事務局長補佐係長) ○浦原雄▽農政課長補佐兼農政、畜産係長(同課長補佐兼農政係長) 宇都聡喜 ▽税務課固定資産課長(総務課)
 ○島根公貴▽商工観光課観光係長(同主意)○島根光明▽建設課道路維持係長(同土木係) ○平田修平▽福祉事務所社会係長(阿久根地区消防組合総務係長) 新町春次▽保健衛生課子防衛生係長(同係) ○池田礼子▽財政課財政係長(同係)(同係) ○新井修平▽企画課企画開発係長(同係) ○川畑裕▽税務課課税係長(同係) ○佐湯信義▽農政課農政係長(同係) ○牛之浜誠▽土地改良課耕地係長(同係) ○若松洋▽市民課参事補(税務課参事補) 中村純雄▽議会事務局庶務係長(都市計画課) ○鳴川森一▽併市民会館参事補(教育委員会社会教育係長) 富吉昭一▽併総務課消防係長(併総務課) 尾塚仁▽阿久根地区消防組合(併総務課消防係長) 桐原隆義▽総務課(福祉事務局長) 岐島善光▽保健衛生課(三笠支所) 小瀬みゆき

全文見学の
新入通文

親子で通学路の下見を

今年も、小さい体に新しい制服やランドセルがまぶしい新入学(園)の季節になりました。期待感で胸をふくらませた子供が、悲惨な交通事故の犠牲とならないように、次の点には特に気を付けましょう。



親が子供と一緒に通学路を何回か歩いてみましょう。そのとき信号の見方や正しい横断の仕方などについて具体的に教えるようにしましょう。

☆余裕をもつて登校させましょう。途中で忘れ物に気がついてあわてて取りにもどつたり、遅刻してしまうことのないようにしましょう。

就寝前に翌日の持ち物を準備させ、朝は十分時間に余裕をもって送り出しましょう。

☆帰宅時間を約束させましょう。学校が終わったら、寄り道をしないでまっすぐ帰宅させるようにしましょう。帰宅時間を約束させ、しっかりと守らせましょう。

短歌

邂逅は旬日にして還りゆくいづれが祖國みな若からず

河南 節子

おぼろなる月わかれどもわが窓ゆ星見えぬまで視力おとろふ

橋崎 サチ

夕げ盛る妻が左手に麻痺のこりおぼつかなければ手を添えてやる

築瀬 紀夫

人いまだ通はぬ曉の村道にそこばく散りてありし山茶花

松永 政志

なつかしの写真



市制当日の市職員のみなさん

阿久根短歌会

枝もるる陽さし動かぬ雑木山の土あたたかき処にいこふ

勝目 悦子



折田恵司選

ありがとうございました

次の方々から広報あくねの送料のお礼として金一封をいただきました。ありがとうございました。

○姫路市の新伊与古さん
○大阪より転入(飛松に)された新町節さん

ゴールデンウィークの
交通安全防止
ゆとりのある運転を

社協だより

次のかたがたから、市社会福祉協議会に寄付がありました。

清水輝夫(山馬場) 盛水国雄(遠矢) 黒崎友義(中村) 榎フヂ(高之口) 猿楽松雄(佐藤) 園田昭夫(新町) 牛之浜トシ子(横手) 花園リン(馬見塚) 中村国雄(的場) 浜辺学(高松) 大瀧弘子(大丸) 寺地福正(尻無下) 牟礼等(牛之浜) 江口宗孝(下村) 小林ヨシノ(牛之浜) 寺地保(尻無下) 山平宏(小漣) 村田エノ(大丸)

▽農政課(水道課) 大田泉▽同(教育委員会) 牛堀佐喜子▽水産課(都市計画課) 浦雅智▽土地改良課(水産課) 福永典明▽福祉事務所(市民会館) 松水庄司▽三笠支所(農政課) 平木スミ子▽水道課(土地改良課) 平田一美▽教育委員会学校教育課(市民課) 大橋隆佳▽農業委員会事務局(保険衛生課) 川原かつよ▽都市計画課(土地改良課) 飛松庄市▽教育委員会(西目保育所) 猿楽より子▽総務課(教育委員会) 花木伸宏

☆特志寄付

阿久根農業高校を転任された原口勝也先生より寄付をいただきました。



ゆうぎや劇にハッスル
仲良し学級学芸発表会

三月四日、阿久根小学校構内で市内の仲良し学級の学芸発表会が催され、五つの学校と授産所から五十人が参加しました。

発表会では、「あられちゃんおんど」の遊戯や「たんころ節」などのおどり、劇、合そうなど十五のプログラムに熱演しました。

また、会場には仲良し学級で学んだ書道、作文、ねん土細工も展示され、発表会を盛り上げていました。



あられちゃんおんどに熱演する子供たち

ワカメ一年分を塩づけ

給食用に保存

阿小6年生が手作業で



ワカメをクキと薬にわけ、塩づけ作業に頑張る子供たち

「学校給食用のワカメを塩づけしよう。」と、三月八日阿久根小

すこやか



坂元庄吾ちゃん
1歳6カ月 市内浜町

市民のひろば

学校の児童たちが、漁協旧市場でワカメの塩づけ作業に汗を流しました。

この日作業に参加したのは六年生百六十人。ワカメは阿久根漁協から贈られた八百。

まず、先生から塩づけの順序が説明され、ワカメをクキと薬に分ける組、これをきれいに水洗する組、塩でもんでタルに詰める組に

三十人が漁業知識を学ぶ

水産教室閉講

昭和五十六年度市の水産教室の閉講式が三月一日阿久根漁協で行われました。

まず、受講生一人ひとりに修了証と記念品が贈られ、川畑市長が「水産教室で学んだ知識をこれか



川畑市長から一人ひとりに修了証が交付される

分かれて作業開始しました。

塩づけ作業は初めての児童ばかりで市場は歓声で大にぎわい、約二時間で一年分のワカメを塩づけした。学校では、週一〜二回給食にミン汁に入れたり、酢の物として出し、子供のカルシウム不足を補うこととしており、このワカメのおかげで子供の骨折も少なくなったとか。

「あの人の中で生かしてください」と激励。修了生を代表して阿久根中学校の上釜利雄君が「多くの仲間ができました。水産教室をよき思い出として、頑張ります。」とお礼を述べました。

阿久根市の水産教室は、漁業後継者をつくらうと昭和四十四年スタート、これまで多くの修了生を送り出し、阿久根市の漁業の担手として活躍しており、県下では阿久根市が唯一所開講しています。

昭和五十六年度の水産教室も昨年八月開講し、これまで月一回漁法、航海術、料理など知識を学んできました。

今回修了した三十人のうち、漁業従事者は一人もいなく、さびしい修了式となりました。

尾原さん賞品の自転車

母校へ寄付

市内尾原の尾原純雄さんがこのほど田代小学校に自転車一台を寄贈しました。

この自転車は、尾原さんが今年の年賀ハガキで二等に当たった賞品で「私が使ったより、子供たちの交通教育の役に立てば」と寄付したもので、学校では「安全な自転車の乗り方に役立っています」と喜び、子供たちは休み時間交わいで乗り回しています。

教育委員に斉藤氏



欠員となつていました。教育委員に、市内高松の齊藤洋三氏(あひ)が任命されました。

齊藤氏は、昭和十一年生れ、昭和三十四年中央大学経済学部を卒業、昭和三十五年には、大谷専修学院を卒業され、現在、明信寺の住職、社会福祉法人顕浄会理事長、盲人ホーム「蓮の実園」の園長の要職にあられ、また、県のボランティア教室講師、サンライフ運動講師として活躍されています。

農村「ミニ社中」大受け

松カ根区「桜カ丘荘」に踊りの慰問



踊りのユカタで踊りを披露

この区民は何よりも踊りが好きで、農閑期や敬老会など、区での催し物には区民が集まり踊りを楽しみ、お互いの融和と親睦を図っています。

農作業も一段落したこの時期、「一度慰問でも」とさっそく「ミニ社中」をつくり「桜カ丘荘」を訪れたものです。

総勢二十人、自前のハッピ、カツラ、ハカマなど持参、石沢正剛さんの「旅笠道中」中川勝さんの「勘太郎月夜石原民子さんの「旅がらす」など十一曲をたっぷり披露し、お年寄りから「友人はだ」とほめられ、初めての対外公演大成功でした。

市内臨本の松カ根区が即席踊り一座をつくり、このほど、市内新町の特別養護老人ホーム「桜が丘荘」を慰問、股旅ものから民謡などの踊りを披露し、お年寄りからヤンヤの拍手を受けました。

松カ根区は十七戸のミニ山村、

元気に頑張ります

十九人が実社会へ

社会に巣立つ中学生を励ます会が三月十一日、市民会館で開かれました。

今年も、市内六つの中学校から四百七十七人が卒業しますが、こ

のうち十九人が就職や家事に従事します。励ます会は、市が毎年行っているもので、赤木教育委員が

「一足早く社会人となる皆さん、社会では苦しいこともあると思いますが元気で頑張ってください」と励まし、一人ひとりに記念のアルバムを贈り、門出を祝いました。

阿久根の民話

③



「とっぼどんの墓」

今から約四二〇年前の水禄三年の晩秋、大分県北九州を経て阿久根(倉津港)にポルトガルの軍船が寄港しました。

この船は山川港で冬を越し、春にインドに帰る予定でした。ところが、船長のアツホン・ヴァスは倉津が非常に気に入りに急遽予定を変更して倉津港で越冬することにしました。

ヴァスは三名の部下とともに小舟で各方面に上陸し、キリスト教を広めるための資料を集めていました。

そしてある日、ヴァスは赤瀬川の浦で一人の未亡人と知り合いました。二人の子もあつたが親切で好意的なこの未亡人にひかれていき、何回か会ううちに深い仲になって二人はついに同棲することになりました。

ヴァスに少し遅れて阿久根を訪れた宣教師のアルメイダは、二人のことを知るとキリスト教徒としてヴァスにこの未亡人と結婚するよう諭しました。しかし、ヴァスには明春インドに帰国することが決まっているため、結婚することはできませんでした。

明けて水禄四年の春、東の季節風が吹き出し、海賊衆も集結のため南下しはじめていました。

ポルトガル船が越冬していることを知った海賊衆の一番手は、出発の準備をして船長の帰りを待つヴァスの船を捕えました。

この海賊衆は、船長と同棲している家にも財宝を持ち込んでいると考え、ヴァスの居所まで襲いました。こうしてヴァスは、未亡人の家であえない最期をとげたのでした。

ヴァスの遺体はこの未亡人の手で悲しみの中にその裏山に葬られました。これが「とっぼどん」と呼ばれている墓です。

この墓は赤瀬川浦にあり、今でも花などが供えて祭られています。



今も浦に残る「とっぼどんの墓」



行事催し物など
とこととお寄せください

昭和五十七年度前期 技能検定試験の案内

昭和五十七年度前期技能検定試験が次の要領で実施されます。
○実施職種 左官、板金、塗装、造園、洋裁、鉄工、サッシ施工、とび、建設機械整備、エレベーター施工、木工、木工機械調整など三十職種。
○受付期間 四月十五日(木)から二十六日(木)まで
○試験実施期間 六月十九日から九月十九日の間
○申込など詳しくは、市の建築係又は、鹿児島県職業能力開発協会 0992-093240へ

光礁大学生募集

阿久根市教育委員会では、昭和五十七年度光礁大学生を次の要領で募集しています。とこととお申し送りください。
○試験実施期間 六月十九日から九月十九日の間
○申込など詳しくは、市の建築係又は、鹿児島県職業能力開発協会 0992-093240へ

国民年金 繰上げ請求は慎重に

国民年金の老齢年金の支給開始年齢は、原則として六十五歳ですが、本人が支給繰上げの請求をすることによって、六十歳から六十五歳までの間の希望するときから繰上げて老齢年金を受けることが出来ます。
ただし、支給の繰上げを請求した人の年金額は、本来の老齢年金の額(六十五歳から受けるべき額)から、支給を希望したときから六十五歳までの間の希望するときから繰上げて老齢年金を受けたいことになっていきます。
国民年金の繰上げ支給を希望される方は、これらのことを十分考え、慎重に請求してください。

スポーツ大会の案内

全日本実業団ソフトボール大会
鹿児島県予選会
○期日 五月一日(土) 二日(日)
し込みください。
○年 齢 六十歳以上男女
○コース 盆栽、歌、書道、踊り
文芸

九州地区予選会

○期日 五月二十九日(土) 三十日(日)
○場所 阿久根市総合グラウンド
(県・九州大会予選会とも)
○申込み 五十七年四月二十六日まで、申込み書に記入のうえ教育委員会社会教育課へ

鶴水園(経費老人ホーム)

入園希望者を募集

出水市切通にこのほど完成した経費老人ホーム(お金を出して入る老人ホーム)「鶴水園」で、入園希望者を募集しています。
入園定員は五十人で、満六十歳以上のお年寄りで身寄りがなかったり、家庭の事情で家族との同居が困難な方などなだでも入園できます。入園料は国の定める基準で算定されますが、一人月額四万円程度となる見込みです。詳しくは、同園(☎09966771)または阿久根市福祉事務所(☎099211)内線413へ

図書館だより

新しい本の案内

- ▽森村誠一著「悪魔の飽食」
- ▽下重晴子著「ゆれる二十四歳」
- ▽井上靖著「本覚坊遺文」
- ▽沢村貞子著「私の台所」
- ▽クロード・チアリ著「愛・結婚・幸福」
- ▽中原実著「みんないじめっこ」
- ▽川谷拓三著「ひらがな人生...役者として男として」
- ▽高橋洋子「雨が好き」
- ▽藤原てい著「旅路」
- ▽北出清五郎著「大相撲への招待」
- ▽田中澄江「叱り方の上手な親下手な親」
- ▽藤竹暁「勉強しなさい」
- しか言えぬ親たち」
- ▽川上哲治著「悪の管理学」

阿久根市の人口

住民基本台帳人口と世帯数 (4月1日 現在)

人口	29,934 (-346)
男	13,979 (-166)
女	15,955 (-180)
世帯数	9,552 (-31)

ご冥福をお祈りします

- 岩元 郁 76 (遠 矢 省 二)
- 川村 将夫 74 (上 野 伊 東 フク)
- 大瀬 千春 44 (大 丸 弘 子)
- 松下 ムツ 84 (新 町 内 山 陽 子)
- 濱辺 善一 72 (高 松 ツルミ)
- 奥 義道 83 (遠 矢 ウメノ)
- 恒吉 キヨ子 50 (永 田 上 保)
- 田 潤 淳 81 (新 町 充)
- 青木 仁助 79 (丸 内 平)
- 和 田 勇 38 (倉 津 町 子)
- 寺下 喜吉 85 (大 丸 夕 子)
- 村田 トキ 75 (大 丸 エノ)
- 奥平 新五郎 89 (牛 之 浜 コシノ)
- 牛之濱 カメツル 81 (牛 之 浜 惣 熊)
- 中野 龍雄 77 (瀬 下 初 子)
- 江口 カエ 87 (下 村 宗 孝)
- 山道 スエノ 64 (上 原 輝 国)
- 濱洲 カメマツ 81 (脇 馬 場 ツルエ)
- 野野崎 ユミ 88 (脇 馬 浜 良 範)
- 山平 キクノ 95 (小 徳 野 村 ソメ)
- 京田 ヤス 76 (瀬 上 哲 雄)

昭和五十七年四月十日発行

鹿児島県阿久根市役所編集発行